地下水を利用した生物の保護活動

自治体名：日本　富山県
発表者名：長森　大、梶　雄大、松下　晋輔（高岡市立中田中学校３年）
活動期間：昭和４５年～現在
活動場所：中田中学校、中田地域周辺
活動人数：平成１６年度科学部　１２名、全校生徒　１９０名

〇活動をはじめた経緯

１９６５年に中田地区のアシツキノリ（藍藻類）が富山県の天然記念物に指定され、中田地区記念物保存会が発足した。その後、１９７０年に中田地区がゲンジボタル・ヘイケボタルおよびトミヨ（清流にすむトゲウオ科の魚）の生息地として、富山県の天然記念物に指定された。この指定を機に、地域全体でこれらの生物の保護および増殖に力を注ぐことになり、中田中学校科学部では、１９７１年から分布や生態などの調査をはじめた。

〇活動結果

長年の活動が理解され、１９９５年にＰＴＡと地域の協力を得て本校中庭に学校ビオトープ「郷里の泉（ふるさとのいずみ)」が造られた。その後、１９９９年には「ホタルの水路」が増設され、アシツキ、トミヨ、ゲンジ・ヘイケボタルを人工的に生育することに成功した。「郷里の泉」は一般にも公開されているため、これらの生物を、身近なものとして感じることができるようになった。

〇発表要旨

（１）ゲンジ・ヘイケボタルの研究・保護活動

ゲンジ・ヘイケボタルは自然状態での生存率が低いため、毎年６月の中旬から下旬にゲンジボタルのメスとオスを捕獲し、学校の敷地内にあるホタル増殖場で産卵・孵化させ、幼虫を育てている。そして、約１～３㎝ほどに成長した幼虫を、１１月～１２月の間に「郷里の泉」の「ホタルの水路」や校区の東部を流れる農業用水である旧六ヶ用水に放流している。

（２）アシツキノリの研究・保護活動

アシツキノリはランソウ類（原始的な藻類）のなかまで、比較的に浅く日当たりのよいところを好む。「郷里の泉」上流に移植したところ、順調に育ち、泉に自生するものや、直径２０㎝以上になるものもみられた。その後の成長の様子を観察・記録したところ、これまで夏場にしかみられないとされていたが、水温などの条件が整えば、冬でも成長することが解明された。平成１６年の８月現在でも元気に生育しており、その生態についてさら

に調べている。

藻が大量発生する春から夏にかけて、定期的にその藻を取り除き、日光がよく当たるようにしている。

（３）トミヨの保護活動

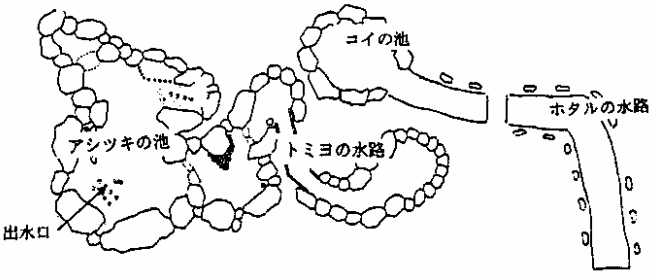
トミヨは「郷里の泉」の中・下流に生息しているトゲウオ目トゲウオ科の淡水魚で、背びれには９～１０本のトゲがある。水草や藻などで巣をつくるため、水路には水草を育成している。エサとなるヨコエビも生息している。

（４）広報・啓蒙活動

生徒会では、これらの生物を中心に郷里の泉の新聞を発行したり、科学部の活動を全校生徒に知らせたりしている。

また、今年６月には全国ホタル研究大会が中田地区で開催され、これを機に全校生徒が環境について考えを深め、いろいろな取組を行った。また、空き教室を利用して泉の部屋が作られた。この部屋には、環境に関するあらゆる資料や科学部の研究データー、総合的な学習の時間に学習したこと等が掲示されており、いつでも誰でも自由に環境について調べることができるようになっている。

（５）今後の活動



地下水層の沈下によって湧き水地帯がなくなったり、三方コンクリートの用水になったりして、現在移田野にはアシツキノリの姿はない。一年中見られるのは、保護している中田中学校中庭といきものの里公園だけである。また、中田地区にはかつてゲンジボタルが数多く生息していたが、用水のコンクリート化などで減少している。

今後は地域の方々と一層の連携をはかり、協力してこれらの生物の増殖・保護活動に取り組んでいきたい。また、自分たちも地域の一員として、環境を守り育てていこうと考えている。